

宮内彩の New Zealand Style no.10

Kate Sylvester

ニュージーランドを代表する人気デザイナーでありながら、これまで3回行われたNZファッションウィークに、過去1回しか参加していないケイト・シルベスター。これは別に彼女がデザイナーのエゴで参加したとらないとか、ビジネスのメリットを計算したり、個人的なわがままでショーを取りやめたなどという、ファッション界でありがちな理由ではない。逆に、これは彼女がビジネスよりも人間的な選択を重視する、真っ当な生き方をしている結果なのだ。

2001年、記念すべきNZファッションウィークの第一回は妊娠8ヶ月だったケイト。更に1歳の双子の男の子を持つ彼女は、当然大規模なショーを行うのを見送った。翌年、第二回目のファッションウィークには参加し、大好評を博した。昨年の、第三回目のNZFWにも参加する予定だったが、社員の病気のために、土壇場でショーを取り止めるをえなかった。

今年のファッションウィーク参加には意欲的だ。母として、そしてファッションをリードするデザイナーとして、パワフルに生きる彼女は、笑顔がチャームで、優しい雰囲気的女性だ。1998年にケイト・シルベスターブランドのデビュー以来、積極的に北半球でもビジネスを展開してきた彼女だが、

国内とオーストラリアのビジネスに集中することに決めたのは、4年前に双子の男の子を出産した時だ。そろそろ子育ての一番大変な時期も過ぎ、今再び少しずつ世界に目を向け始めている。

ニュージーランドで服作りを学んでから、ヨーロッパに渡り、ロンドンでアラベラ・ポレン、パリではコリーヌ・コブソンの元でキャリアを積んだケイト。「幼い時から、自分のブランドを持ちたいと思っていました」と言う。「14歳の時には、既に自分でハンドプリントした洋服を売っていました。そして、80

年代の初期には、アオテアセンターのストリートマーケットで、自分で作った洋服を売っていたのです。自分のビジネスを立ち上げる為にNZに戻って来たケイト。「ヨーロッパでファッションビジネスを始めるのは大変なことです。

ニュージーランドでは、小さな資本でもビジネスをスタートすることができる為、戻って来たのです」と話す。1993年にストリートウェアの「シスター」のブランドでデビューを果たし、キチナー・ストリートに店を出した。ニュージーランドの若者達の支持を得た彼女は、翌年から国内の様々なお店に商品を卸すようになった。「この頃、ニュージーランドのファッションには、未だ『輸出』というコンセプトはありませんでした」と当時の様子を語る。1997年に「シス

PARTY

サテンのドレスでパーティに華を添えて。微妙なブルーの色が美しい。ドレス\$525

WEEKEND

リゾート気分の細かい花柄のミニワンピースは、街でも、ビーチでも映えるスタイル。ワンピース\$365

CASUAL

「シルベスター」のカウボーイのTシャツに、可愛いラップスカートで活動的なイメージに。Tシャツ\$125 スカート\$525

TOWN

街でショッピングやランチの時に、華やかな気分してくれるコード刺繍のスカート。スカート\$365 ニット\$225

TOWN

今年のテーマ、ポロックのプリントのTシャツにフェミニンなスカートを合わせて。Tシャツ\$95 スカート\$315

WORK

黒いラインがアクセントのスーツはしっかりとしたイメージに程よい女らしさをプラス。ジャケット \$425 スカート\$295 タンクトップ\$185

WORK

清楚なイメージのワンピースは、仕事のシーンでも、遊びのシーンでも大活躍。ワンピース\$485



Profile photo Yuji Hori

宮内彩 東京生まれ。西町インターナショナルスクールを経て、スイス、ル・ロゼ高校、米タフツ大学卒業。帰国後、パリ・ミラノ等世界のコレクション取材、雑誌・新聞・テレビ・ラジオ等でファッション・コラムニストとして活動。オーストラランド在住の中村嗣氏と結婚のため、2000年より生活の拠点をNZに移動。01年、長男・章人君、02年、次男・天人君誕生。子育ての合間を見て、旅・食・住等ライフスタイル全般のコラムニストとして英語及び日本語で執筆活動が続けている。著書は近代文藝社「おしゃれのエッセンス」「おしゃれのエッセンス旅コレクション」(母・大内順子と共著)等、NZでの生活のエッセイが載っているホームページはwww.ouchi-jurko.com



ター」をオーストラリア市場に輸出を試みた彼女は、ブランド名の変更を余儀なくされる。1998年にオーストラリアのファッションウィークで「ケイト・シルベスター」のブランドで海外市場にデビューを果たした。その後、ニューヨークや香港でショーを行い、日本ではバーニーズでも展開されるようになり、世界的に急成長の波に乗っていた「ケイト・シルベスター」。その勢

立しているケイトは、女性として、一番充実した時期を過ごしているに違いない。

今店頭に並んでいるKate Sylvesterの春夏コレクションは「もしもジャクソン・ポロックとクレア・マッカーデルが会ったら、どうなっていただろう?」という設定から「When Jackson met Claire」と題された。「たまたま見た映画や本から、想像してみたんです。50年代調で、



ボヘミアンなイメージのコレクションです」。セカンドラインのSylvesterはカウボーイのテーマで、やはり50年代調の影響が見られる。「自分が着たい服を作る」と言うケイトは「自分のブランド以外の服は着ない」と言い切る

帰宅し、3人の幼い息子たちと遊ぶ時もKate SylvesterがSylvesterの服を身にまわっている。優れたデザイン性を持ちながら「私の服はとても実用的なの」という言葉に、幼い息子を二人持つ身としては大きく共感してしまう。

